

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

「基本を学び、地域と共に」

高田ロータリー今年の
スローガン

「ロータリーを識り、
奉仕を实践し友情を深めよう」



人類に
奉仕する
ロータリー

2016～2017年度

国際ロータリー会長 ジョンF.ジャーム
2560地区ガバナー 田中 政春
高田ロータリー会長 本山 秀樹
幹事 中田 正

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員
加藤 卓也 伴 長門 斉藤 光雄 佐藤 芳徳

第45回例会 ■ 6月9日(金)

No.44

会長挨拶 ● 本山 秀樹



今朝、高田公園を散歩してみますと日に日にハスの葉が大きくなり湖面一面を覆うようになってきました。昨年7月の第3回例会で高田公園のハスの話をしてからもう1年近く過ぎたことを思い、毎年変わることの無い自然の営みに驚きを感じつつ感激し、一歳老いたことを実感する今日この頃であります。

さて、私の年度もいよいよ20日あまりになり、日本のロータリーについて少し勉強をしています。まず出てくるのが米山梅吉翁の名前です。米山翁は、慶応4年(1868年9月8日より明治)東京に生まれ母親の郷里静岡県三島で育ちました。苦学し東京府職員となり、その後渡米しスクールボーイと呼ばれる働きながら大学に通うシステムを利用してアメリカの大学を卒業し帰国しています。その後、三井銀行に入行して経営に携わるまでになりました。皆さまもご承知の通り日本でのロータリーの始まりは、米山梅吉翁が三井銀行常務時代、渡米の折にロータリークラブの存在を知ると、その奉仕という理念に共鳴し、大正9年(1920年)に日本最初の東京ロータリークラブを発足させ、初代会長になったことから始まりました。

実は知らなかったのですが、米山翁は私費を投じて緑丘小学校(現在の青山学院初等部ならびに幼稚園)を設立し、校長に就任しています。青山の卒業生としてさらに親しみを感じました。米山奨学の寄付金が多少苦戦しているようでもありますので、これを機会にお願いします。

出席報告

出席率 96.23%

セレモニー

米山功労者表彰 石倉 悟君・小柳勝司君
米山功労クラブ表彰

委員会報告

出席・ニコニコBOX委員会

本山秀樹君——7日に妙高サンシャインで開催された上越商工会議所会頭杯会員ゴルフ大会でハンディに恵まれ7位に入賞しました。同伴者の遠藤さん、大谷さん、石倉さんに感謝申し上げます。

渡邊 隆君——皆様にご出席いただきました。6月3日の祝賀会で上越教育大学・看護大学の「学長」職を卒業しました。いつもながらの皆様のご支援に感謝

小林幹央君——6月23日付けでダイレクトチャネル推進部に部長で異動となりました。総合協議が本格化する中大変ですが、今まで以上にがんばりたいと思います。2年間本当に楽しく、去り難いです。お世話になりました。

親睦委員会——6月の会員お誕生日各お祝い

田中次期幹事——2017-18年度委員会事業計画書提出のお願い(6月12日まで)

幹事報告

配布物：週報No.44

回覧物：第14回韓日親善会議のお誘い・第14回韓日親善会議参加の旅パンフ

報告：高田RAC 6月最終例会日程変更のお知らせ(6月14日⇒6月15日移動例会となります)

6月16日臨時会議のお知らせ(定款・細則の修正・整合性について)

6月16・23日クラブ協議会のお知らせ

会員卓話 私の履歴書



昨年の10月にアートホテル上越のブランドに伴い赴任し、また高田ロータリークラブに入会してまだ間もないことから、今日は私という人間を知っていただくいい機会だと思い「私の履歴書」と

島元 亨君

題しお話をさせていただきます。

【誕生】

青森県は日本海沿岸の深浦町で3男1女の末っ子で生まれました。

現在はブナ原生林を有する世界遺産の「白神山地」、また、一度は乗ってみたいローカル線として全国的に人気を集めている五能線沿いであり、本マグロの漁獲量で青森県ではNo.1を誇る町でもあります。

【幼稚園時代】

父が大工で、家の一部が現場。そういう環境なので材木が遊び道具でした。

今でも鮮明に目に焼き付いていることは、家を新築する際に今まで住んでいた家が人力によって後方にスライドさせていたこと！借家としていまだ現役で頑張っていますが、今でも柱に思い出の背比べ線が残っているらしいです。

【小学年時代】

兄の影響でサッカーを始める。地区では常に優勝していたが県では歯が立たず。

小6で生徒会長に立候補しましたが惜しくも次点で破れる⇒初めての挫折感を味わう。

【中学校】

3年間サッカーをしていましたがこれといった結果は出ませんでした。

【高校】

小学時代の屈辱をと生徒会役員を3年間経験。ただ、高2で交通事故に遭う。1週間意識不明の状態で生死をさまよった。

【就職】

東京有楽町 ソフトウェア開発の会社に入社。新入社員は当時で130人。3ヶ月研修し、神奈川県小田原市 日立製作所 光ディスク装置設計部に配属し3年勤めたが世界が違いすぎて挫折。

【青森へUターン】

何を血迷ったか、町の第三セクター 新しい会社を受けるも不採用、コネクションという怖さを痛感しました。隣町役場の臨時職員を受けたら合格し半年間勤務。

【隣町役場の当時観光課長との出会い】

その観光課長の自宅で経営している民宿・宴会・お食事処でサービス業のスタートをキル！！

【ホテル転職へのターニングポイント】

1年間車を運転することが出来なくなり退職を決意。北海道のリゾートホテルへアルバイトで潜り込み、半年後に正社員となりフランス料理、中国料理、宴会、バーラウンジを経験しホテルのサービス業界にのめりこんでいく。

ところが97年11月北海道の某銀行が経営破綻。それに伴いホテルも98年3月に自己破産申請し閉館となる。一瞬で職を失うことになりホテル専門の人材紹介会社に登録し時給制で函館、富良野などのホテルを4年間渡り歩く。タイムイズマネーの4年間を過ごす。

【閉館したホテルが再オープン！】

以前一緒に働いていた仲間から、「あのホテルがまた開業するから来ないか！」

1つ返事で承諾した。暗がりの長いトンネルの先に光が差し込んだ一瞬だった。

ほぼ同じ時期に結婚を決意した。4年後、自分自身ネクストステージに立ちたくて転職を決意、栃木県那須高原リゾートホテルでの再出発となる。1年後の2006年経営会社の特別精算で事業譲渡され、オーナーと運営会社が目まぐるしく変わる。

【総支配人としてのスタート】

千葉県にある50室程度のホテルで支配人としてのチャンスを貰う。

翌年、東日本大震災を経験し、トップとしての決断の重要性、怖さを知る。

その春に東京の300室のビジネスシティホテルへいくことになる。2年後、瀬戸内海に浮かぶ小豆島にあるリゾートホテルへ行く。3年半、ホテルマン人生の中で一番厳しいオペレーションであったことから今振り返ると自分を総支配人として一歩成長させてくれたホテルに違いない。

2016年3月 運営会社の統合（実質は吸収された側）、またまた暗いトンネルに突入となったが、2016年10月にアートホテル上越と新潟駅前店のリブランドに携わり総支配人として現在に至る。

今考えてみれば、人の縁にも恵まれ、その中で黙って好きな事をさせてくれた両親への感謝。結婚して15年、仕事に追われ家庭を犠牲にしていたのにも関わらず家庭を守ってくれている妻には感謝の気持ちでいっぱいです。

ロータリーの友6月号より

P40 フランス人ロータリアンの見たJAPON？ ピエール・クルー

明らかな不公平に立ち向かう時は、反対の見方も受け入れられるよう先入観を持たないことにしている。私は自分の心を補うために、そわそわと世界中に旅に出る。

私は固定観念を超えて、日本をよく知りたかった。私たちの西洋文化は、書道、能、相撲、神道などの日本文化とはかけ離れているように見える。多くのヨーロッパ人は、日本を、環境汚染された、富士山以外は大した自然もない、不気味に都市化された国だと想像している。

そんなイメージに対して、現実はどうだろう？

日本人はグループ行動においては優れている。これは強い国民的結束と共通の目的に対する効果的な市民参加につながる。他者への敬意と礼儀はどの日本人にもある第二の天性である。

明らかなことは、日本では革新も進歩も、伝統や精神性とぶつからなかったということである。そして自然は、世界で最も美しく、山が多く、変化に富んで、尊敬されている。

日本において、過去の習慣、信念は、日常生活に直接影響を及ぼしている。これは西洋の生活様式とは対照的である。西洋では、日本ほど過去と現在の時間が入り組んでおらず、習慣や信念を全く無視して、お互いに重なり合っている。

『日本に対するビジョン』から